

擔保附社債信託法案特別委員會議事速記第五號

明治二十八年二月十日(金曜日)午後一時五十九分開會

○委員(子爵岡部長職君) 是カラ委員會ヲ開キマス

○名村泰藏君 此案ニ付テ先日カラ段々御審議ニナッテ居リマスガ、今マデ此案ガ必要ナル、必要ナルカラ通サナクテハナラヌト云フ御論ハ一ツモ今日マデアリマセヌダガ、此修正ヲシテ行ク前ノ先決問題トシテ此案ハ、此節柄アルケレドモ將來利益ニナルベキ法律アルカラ此法律ヲ通スベキモノデアアルカ、通スベキモノデナイカト云フコトノ御決議ヲ先ツ第一ニ願ハナクテハナラヌト思ヒマス、デ私ハ實際ドウモ已ムヲ得ヌ、此案ヲ通サナクテハナラナイモノデアラウト考ヘマスルカラ、諸君ノ御意見ハ如何デアリマスルカ、一應同シテ置キマシテ、ドウカ先決トシテ御採リ下サルヤウニ願ヒタイ

○委員(子爵岡部長職君) 諸君ニ一言申上ゲマスガ、即チ唯今開會イタシマシタル所ノ委員會ハ第一讀會ノ續ヲ開イテ居ルデアリマスカラ、即チ大體ニ付テノ御意見ヲ御發表ニナリマス順序ニナッテ居リマス

○平山成信君 今名村君カラ大體ノコトニ付テ皆ノ考ハドウデアアルカト云フ御話デアリマシタガ、私共ハ無論此法案ハ今日ニ於テ必要ナリト考ヘマスカラ、大體ニ於テハ贊成デアガイマス、デ委員會ノ初メニ於テ政府委員カラ御説明ガアツタ通り今日社債ヲ發行スルコトハ出來テ居リマスケレドモ之ニ擔保ヲ附スル方法ガ備テ居ラヌ爲ニ充分其募集が出來ナイト云フノハ皆サン御承知ノ通りデアリマス、今日我國大ニ經濟上ノ發展ヲナシテ將來益ノ膨脹ヲ來スベキ時期ニ當ッテ居ルデアリマスカラ、凡テ金融ヲ圓滿ニスルカ、商工業者ノ資本ヲ裕カニスルカ、之ヲ要スルニ事業ノ發展ヲ助クベキ方法ハ大小輕重ヲ問ハズ私ハ少シデモ殖エルカ宜カラウト思ヒマス、此法案ノ如キハ無論大體ニ於テ贊成デアリマス、ドウツ此法案ノ議會ヲ通過シテ成立スルヤウニ希望イタシマス

○富井政章君 私モ兩君ト同感デアガイマス

○委員(子爵岡部長職君) 唯今名村君カラ大體ニ付テ此案ヲ通過スベキモノト云フ御説ガ出、平山君富井君ノ贊成ガアリマシタガ、諸君ニ於カレマシテモ別ニ御異議ガ無ケレバ即チ第一讀會ハ此際ニ通過スルモノト認メテ宜シウゴザイマスカ

(「宜シウゴザイマス」異議ナシト述フル者アリ)

○委員(子爵岡部長職君) 然ラバ第一讀會ハ通過ヲ致シマシタ、是ヨリ第二讀會ニ掛リマス、便宜ノタメ一章ツ、問題ニ供シマシテ一章ノ中、各條ニ付テ御審議ニナリマシタラ宜カラウト思ヒマス、第一章ノ問題ニ供シマス

○富井政章君 此章ニ付テ五六修正ヲシタイト思フ點ガアリマスルガ、一時ニ皆述ベテ宜シウゴザイマスカ

○委員(子爵岡部長職君) 宜シウゴザイマス、順ヲ逐テ願ヒマス

○富井政章君 先ツ第一章「通則」トアルヲ「總則」ト改メタイト思ヒマス、是ハ多クノ法律ノ例ニ倣フ目的ニ過ギナイデアリマス、次ハ第二條、是モ單ニ文字ノ修正デアリマ

ス「社債ニ物上擔保ヲ附スルトキハ」トアルノヲ「附セムトスルトキハ」ト改メタイ、即チ「附」ノ字ノ下ニ「セムト」ノ二字ヲ入レルコトデアリマス、其下ニ「社債ヲ發行スル」トアリヌガ、其ノ社債ヲ發行スル」トシタイト思ヒマス、ソレカラ同條ノ終ニ「信託契約ニ依リ定メタル條款ニ從ヒ」トアリマスガ「依リ定メタル條款ニ」ノ九字ヲ削除シタイト思ヒマス、此九字ガ少シモ必要テナク且ツ無イ方ガ却ッテ明瞭デアラウト思フダケノ理由デアリマス、次ハ第四條デアリマス「社債ニ附スヘキ物上擔保」トアルヲ「社債ニ附スルコトヲ得ヘキ」ト致シタイ、即チ「附ス」ノ下ニ「ルコトヲ得」ノ五字ヲ加フルコトデアリマス、是モ唯文字ノ修正ニ過ギナイ、原案デハ何ダカ附センナラヌヤウニ考ヘラル、カラデアリマス、ソレカラ十條十一條及第十二條デアリマスガ、此所ニモ至ッテ小サナ修正ヲ加ヘタイト思ヒマス、先ツ第十條デアリマスガ「事業ノ報告」トアルノヲ「其ノ事業ノ報告」ト云フ字ヲ加ヘタイ、ソレカラ第十一條ノ第二行目「事業ノ停止」トアリマスガ「其ノ事業ノ停止」ト致シタイ、第十二條モ同様デアリマス、「其ノ事業ノ停止」ト致シタイ、是ハ口調ガ宜イバカリデナク、銀行事業ヲ兼テ居ル場合ニハ信託事業ノミヲ停止スルコトデアリマスカラ、上ニ信託云々ノ字ガアル以上ハ「其ノ」ト云ウテ信託事業ニ限ルコトヲ明ニシタガ穩カデアラウト思フンデス、ソレカラ次ハ第十七條デアリマス、是ハ少シク實質ノ改正ヲ致シタイト思ヒマス、先ツ第一項「會社カ」ニ云トアリマス、此「會社カ」ト云フノハ如何ニモ突出デアッテ、ドウ云フ會社デアアルカ、能ク分ラヌヤウデアリマス、ソレデ此三字ヲ削ッテ「外國ニ於テ物上擔保附社債ヲ募集セムトスルトキ」トアル此「トキ」ノ二字ヲ「會社」ト改メタイト思ヒマス、ソレカラ實質上ノ改正ニ移リマスガ、原案ニ依レバ日本ニ於ケル代表者ト云フモノハ個人デ無クテハナラヌ、會社ヲ代表者ト爲スコトハ出來ヌヤウデアリマス、ソレハ甚ダ不便デアラウト考ヘマスニ依テ法人ヲ代表者ト爲スコトヲ得ルト云フ規定ヲ置キタイト思ヒマス、此考ヨリシテ第二項ノ末文ヲ左ノ如ク改メタイト思ヒマス、「日本ニ於ケル代表者ヲ定メテ」トアルノヲ「定ムヘシ」トシテ、ソレデ項ヲ切ッテ仕舞フ、ソレカラ第二項トシテ「商事會社ハ前項ノ代表者タルコトヲ得」ト云フ一項ヲ入レルデアリマス、ソレカラ其次ニ第四項トシテ「第二項ノ規定ニ依リ代表者ヲ定メタルトキハ遲滞ナク其ノ氏名及住所又ハ商號及本店ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ」斯ウ改メタイト思ヒマス、ソレカラ第五項ハ原案ノ第三項ニナリマス、唯原文ニハ「會社」ノ取締役ニ云々トアリマスガ、此「會社」ト云フノハ如何ナル會社デアアルカ明瞭デナイト思ヒマスカラ「信託會社」ノ取締役トシテ「信託」ト云フ二字ヲ「會社」ノ上ニ置キタイト思ヒマス、是ダケノ修正デアリマシテ、第十七條ヲ除ク外ハ殆ド下文字ノ修正ニ過ギナイデアリマス、何レモ前會ニ速記ヲ止メテ内評議ノ節ニ政府委員モ同意セラレタ點デアリマスルカラ、何卒諸君ニ於テモ御同意下サレムコトヲ願ヒマス

○馬屋原彰君 私ハ此第一章ニ付キマシテハ少シ意見ガ有リマスデアガイマス、此第四條ノ所ニ於キマシテ修正ヲ致シタイト云フ意見ヲ持テ居リマス、此法案ノ信託事業ト申シマスルモノハ各種ノ債務ニ涉ツタ事業テ無クシテ單ニ債務ト云フノニ限テ居ルノデ

貴族院擔保附社債信託法案特別委員會議事速記第五號

明治二十八年二月十日

二一九

アリマスガ故ニ、第四條ノ擔保物件ノ中ニ付キマシテ第一號ノ動産トアリマスル、例ヘバ動産ト云フモノノ動産質ト云フダケ、此一號ダケヲ削リタイト云フ意見ヲ持ツテ居リマス、其理由ハ茲ニ「動産質」ト掲ゲテアリマスルト云フト彼ノ有價證券ノ如キモノニ限ラズ極メテ範圍ノ廣イ極メテ雜多ナ物品ヲ此中ニ含蓄シテ居ルモノト解釋シナケレバナラヌ、果シテサウ云フ雜多ナ物品ト云フモノヲ此擔保物ニ致シマス、是ガ此社債ニ對シテ適當ナルヤ否ヤト云フコトヲ考ヘテ見マスルト本員ノ見ル所ニ依リマス、ドウモ是ハ除イタ方ガ宜カラウ、又我邦ハ經驗ヲ積マザル眞ニ創始ノ事業デアリマスカラ、成ルベク取扱ノ上ニ付テ間違ノ起ラヌヤウニ信託會社ニ所謂信託シ得ラル、ダケノ性質ノ上ニ付キマシテモ雜多ナ動産マデモ引受ケサセルト云フコトノ上ニ於キマシテハ眞ニ考慮ヲ要スベキモノデアリマス、殊ニ本員ガ是マデ承認シテ居リマス所ニ依リマスルト、米國ナドテ行ハレテ居ル信託會社デモ此動産ト云フモノマデ擔保ニ加ヘタ所ハ絶對的ニ無イトハ限レナイガ、多クハ無イト云フコトデ、既ニ本家本元タル米國ニ於テ行ハレル所ノ事例ニ徵シマシテモ斯ウ云フ雜多ノ動産ヲ入レテ置カナイト云フコトデゴザイマスレバ我邦ノ如キ創始ノ事業ニ於テ斯ノ如キコトヲ入レルト云フコトハ到底其當ヲ得ナイト考ヘマス、ドウカ此點ニ付キマシテ幸ニ諸君ノ御贊成ガアリマスレバ満足イタシマス、即チ此四條ノ「一動産質」是ダケヲ削除イタシタイト云フ意見デアリマス

○委員長(子爵岡部長職君) チョット馬屋原君ニ御尋シマスガ、馬屋原君ノ御説デハ有價證券ハ省ク中ヘハ這入ッテ居ラヌノデスカ

○馬屋原君 無論サウデス、有價證券ノ如キモノハ私ガ此法文ヲ解シマスルニ第二號ノ中ニアルト解釋シテ宜イカモ知レマセヌガ、サリナカラ是ハ皆サンノ御考デドウモ是デハキリシナイト云フコトデアリマスレバ、是ハ法文ノ中ニソレダケヲ明ニスルト云フコトハ毫モ異存ハ無イトデアリマス、唯本員ノ希望イタシマスル所ハ有價證券以外ニ雜多ナ動産マデモ入レルト云フコトハ宜シクナイ、ト云フガ主意デアリマス、ソレカラ序デニモウ一箇條、五條ト六條トノ間ニ新ニ一條ヲ加ヘタイト云フ希望ヲ持ッテ居リマス、其事柄ハ此信託會社ノ業務年限ヲ定メタ方ガ宜シカラウト云フ希望カラシテ新ニ一條ヲ設ケタイト云フデアリマス、デ茲ニ其文ヲ考ヘテ居リマスカラシテ、チヨット讀ミマスデゴザイマセウ、ソレカラ五條ト六條トノ間ヘ行キマシテ、サウシテ是ガ這入レバ無論原案六條カラズツト順ヲ逐フテ修正ニナラナケレバナリマセヌガ、私ガ新ニ入レタイト云フ六條ニ當ル所ノ法文ハ第六條「信託會社ノ免許年限ハ五十箇年ヲ超ユルヲ得ス」ト云フ條ヲ設ケタイト考ヘマス、此年限ノ問題ニ付キマシテモ私ガ一個ノ發明デナク英米ニ行ハレテ居ル所ノ信託會社ニ於キマシテモ多ク年限ガ定メテアルト云フコトデ、ソレハドウ云フ必要ガアルデアラウカト云フコトハ種々ノ必要アリマセウガ、先ヅ本員ナドガ必要ト感シマスルノハ此信託會社ガドウモ業務ノ成績ニ於テ宜シクナイト云フヤウナ場合ハ最モ我邦ノ創始ノ事業ノ上ニ付キマシテハ有ルコトト考ヘマス、就テハ此法案ニ其事業ヲ停止シ若クハ免許ヲ取消スト云フコトガ行政廳ノ權限デ出來ルコトニハナッテ居リマスガ、此權限タルヤ本員共ガ考ヘマスルノ實ニ容易ニ此權限ヲ實行シテ貰フコトハ好マナイ、實ニ己ムヲ得ザル時ニ生ズルデアラウ、就テハ此年限ヲ信託會社ニ定メテ置キマス上云フト自然其業務ノ成績ニ依ッテ滿期ニナッテ上デ又更ニ其免許ヲ希望シテ來ル場合ニ臨ンデ、行

政廳ガ手心得ドウモ是マデノ成績ヲ以テ此會社ニ信託事業ト云フモノヲ是カラ後更ニヤラセルト云フコトハ宜シクナイト云フ時ニハ、ソレデモウ止メルコトガ出來ル、極ク穩カニシテ宜イト思フ、若シ年限ナシニ無期限ニ置キマス、トシテ不都合ガ出テ來テモ詰リ行政權デ其免許ヲ取消スト云フ外ニハ出來ナイト云フコトニナッテ來ル、其取消ト云フコトハ餘リ面白クナイ話デ、信託會社ト云フヤウナモノデアリナガラ行政權ヲ以テ其免許ヲ取消サレタト云フコトハ實ニ此事業ノ爲ニ餘リ面白クナイ、依ッテ其年限ヲ附スルコトガ必要ナリト考ヘマシタカラシテ此一條ヲ加ヘタイト云フ希望デアリマス

○穂積八束君 富井サンカラ第一章ニ付キマシテ御修正案ガ出マシタガ、之ニ付テ、御主意ニ付テハ私ハ贊成ナラデアリマスガ、委員長ニチヨット伺ヒマスガ、實ハ私ハ前會ニ缺席ヲシタモノデアリマスカラ大體ノ御主意ハ承ッテ居リマスガ、文字ニ就テ始メテ見タノデアリマスカラ、質問ヲシテ了解シテカラ贊成ノ意ヲ表シタイト思ヒマス、富井サンニチヨット伺ヒマスガ、第十七條ノ第二項以下ノ御修正デアリマス、アレニ「商社會社ハ前項ノ代表者タルコトヲ得」ト云フ御修正ニナッテ居リマスガ、是ハナセスウ云フコトガ必要デアラウカト云フコトヲ素人ガ疑フダラウト思ヒマス、一應之ニ付テ御説明ヲ承リタイノデアリマスガ、政府提出ノ案見マスルト「氏名及住所」ト云フコトガ掲ゲテアリマスカラ、是カラ見ルト代表者ナル者ハ必ズ自然人デアルト云フコトハ間接ニ考ヘテ居ルヤウデアリマス、併シ自然人デナクテモ法人デモ宜シイト云フ鹽梅ニ廣メヤウト云フ御主意デアリマスレバ、其主意ニ贊成シタイノデアリマスガ、チヨット考ヘテ見マスル所ハ他ノ者ノ代理權ヲ行フ代表者トナルト云フコトハ特ニ言ハズトモ出來ルコトデハナイカト思フ、然ラバ是ハ要ラスノデヤナイカ、又是ハ商社會社ト云フコトニ意味ガアルノデ民社會社トハ言ッテナイ、斯ウ云フ工合ニ特ニ商社會社ニ御限リニナル精神ナラバ「前項ノ代表者タルコトヲ得」テハ少シ其意味ニナラヌノデ、商社會社ニ限ッテ之ヲ許スト云フコトニナラナクテハナルマイカト思ヒマスガ、是ハ何カ私ノ誤解ガアルニ相違ナイ、アナタノ御説明ヲ聽ケバ必ズ分ルト思フ

○富井政章君 代表者ト云フ言葉ハ私ハ自然人ニ限ル言葉デアナイト思ヒマシタガ、政府委員ニ於テハ此案ニ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任セシメ云ケト云フハ決シテ法人ヲ含マナイ自然人ニ限ルト云フコトデ成ルホド此條ナドデハサウデアリマセウ、ソレカラ又他ノ法律ニ於テモ商法ナドニ例ニ舉ゲテ言ハレマシタガ、代表者ト云フ言葉ハ法人ヲ含マナイト云フコトデアリマスカラ、ドウシテモサウデアルト自然人ノ外ニ法人モ代表者トナルレト云フ規定ガ要ルヤウニナッテ來ルノデアリマス、法人ハ大體カラ言ヘバナレナイノデ、其中ノ商社會社ダケガナレルト云フノデアリマスカラ「代表者タルコトヲ得」ト書イタ譯デアリマス、商社會社ニ限ルト云フコトハ、少シ狭イカモ知レヌト思フノデアリマス、民法第二十

五條ニ依ッテ營利ヲ目的トスル社團ガ商社會社デナクシテ法人トナル場合ガアリマス、或ハ廣ク營利ヲ目的トスル法人トデモ書イタ方ガ宜イカモ知レマセヌガ、併シ實際ハモウ大體商社會社デアラウト思ヒマス、斯ウシテ置ケバ大抵ノ場合ハ不便ハ無カラウト思フテ商社會社トシタノデゴザイマスガ、實質上ハモウ少シ廣イ方ガ宜イノカモ知レマセヌ「代表者タルコトヲ得」ト書イタ譯ハ今申上ゲタ通り原案ニ依レバ法人ハナレナイノデアル、其中ノ斯ウ云フ法人ダケハナレルト云フ主意ヲ示シタ積リデアル

○穂積八束君 サウ致シマスレバ、斯ウ云フコトト解釋シテ贊成シテ宜シイノデスカ、代表者ト云フ文字ハ法人ハ含マナイ文字アルカラ、ソレデ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムベシト言ヒ放シニシテ置テハ法人ハ代表者ニナレナイト云フコトニナルカラ、ソレデ先ヅ茲ニ法人ハナレナイト云フコトヲ言フテ置テ、サウシテ次ノ項ニ商事會社ト云フハ此限ニ在ラズ、斯ウ云フ意味デ是ガ這入ッテ、政府委員ノ御考モ法律ニ代表者ト云フハ法人ハ含マナイモノデアッテ自然ニ限ルト、斯ウ云フ御說明デアッタノデスカ

○富井政章君 何レ政府委員カラ御答辯ガアリマセウガ、チヨット其前ニ今一言申上ゲテ……私モ實ニ斯ウクドク書クノハ好マナイノデ、成ルベク代表者ト云フ言葉ハ自然ハト法人ト云フコトヲ言フテ置テ、サウシテ次ノ項ニ商事會社ト云フハ此限ニ在ラズ、斯ウ云フ意味デ是ガ這入ッテ、政府委員ノ御考モ法律ニ代表者ト云フハ法人ハ含マナイモノデアッテ自然ニ限ルト、斯ウ云フ御說明デアッタノデスカ

○政府委員(平沼騏一郎君) 此際一言イタシテ置キタイト思ヒマス、富井サンヨリ御提出ニナリマシタ修正案ニ就キマシテハ、政府ハ異議ハ無イノデゴザイマス、此十七條ニ付キマシテ今穂積サンカラ色々御話モゴザイマシタガ、此點ニ付キマシテ一應辯明ヲ致シテ置キタイ考デゴザイマス、是ハ富井サンヨリ御說明ニナリマシタコトヲ唯同ジコトヲ繰返スニ過ギヌカ知レマセヌガ、政府ノ意見モ一應申上ゲテ置ク方ガ宜カラウト考ヘマス、大體申上ゲテ置キマス、此富井サンノ御提出ニナリマシタ修正案ノ第二項「デゴザイマス、商事會社ハ前項ノ代表者タルコトヲ得、若シ代表者ト云フモノヲ解シマシテ自然ハ人モ法人モ兩方含ムト云フコトニナリマスレバ此項ハ勿論要ラナクナルノデアリマスガ、政府ノ考ト致シマシテハ此第二項ノ代表者ト云フモノハドウモ解釋上自然ハ人ノミヨ含ムト云フコトニ相成ラウト考ヘマスルノデ、ト申シマスルノハ先刻富井サンヨリ御話ノゴザイマシタ通り本法ノ他ノ條文ニ代表者ト云フ文字ヲ明ニ自然ハ人ニ限ラズ居リマスル條文モゴザイマスルシ、又現行ノ商法、殊ニ此外國會社ニ關シマスル第二百五十五條ノ規定、此第二項ノ「日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ハ其日本ニ於ケル代表者ヲ定ム」云々「其氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス」斯ウ云フコトニナッテ居リマス、此代表者ト申シマスル文字ハ當然自然ハ人ノミヨ含ミマスルコトニナラウト考ヘマスノト、ソレカラ又外國保險會社ニ關スル勅令、是ハ明治三十二年勅令第三百八十號「デゴザイマス、此第一條ニモ「外國會社カ日本ニ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ムトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムルコトヲ要ス」ト斯ウ云フコトニナッテ居リマス、ソレニ商法六十二條ノ規定ヲ準用シテ居ル、ソレカラ其次ノ條文即チ第二條「代表者ノ氏名、住所ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス」ト云フヤウナ規定ガゴザイマス、此代表者ト云フ文字モ矢張り明ニ自然ハ人ニ限ルト云フコトニ解サナケレバナルマイト思ッテ居リマス、テ斯ノ如ク唯今申シマシタ商法並勅令ノ代表者ト云フ文字ヲ解スルコトニ相成リマスルト云フト丁度同ジヤウナ規定二十七條ノ二項ガ相成ルノデゴザイマスカラ、先ヅ平易ニ解シマシタラバ矢張り是ハ自然ハ人ニ限ル、斯ウ解釋シテモ穩當デアラウト思フ、サウナリマスドウシテモ法人ヲ代表者トセネ

○委員長(子爵岡部長職君) 第一章ニハ富井君ノ修正說ガ成立ッテ居リマス云フコトト、ソレカラ第五條第六條ノ間ニ免許年限ヲ五十年以内ニ限ル、此修正ニ贊成ヲ致シマス、其他富井君カラ出マシタ修正ニハ無論贊成ヲ致シマス

○委員長(子爵岡部長職君) 第一章ニハ富井君ノ修正說ガ成立ッテ居リマス云フコトト、ソレカラ第五條第六條ノ間ニ免許年限ヲ五十年以内ニ限ル、此修正ニ贊成ヲ致シマス、其他富井君カラ出マシタ修正ニハ無論贊成ヲ致シマス

○委員長(子爵岡部長職君) 第一章ニハ富井君ノ修正說ガ成立ッテ居リマス云フコトト、ソレカラ第五條第六條ノ間ニ免許年限ヲ五十年以内ニ限ル、此修正ニ贊成ヲ致シマス、其他富井君カラ出マシタ修正ニハ無論贊成ヲ致シマス

○委員長(子爵岡部長職君) 第一章ニハ富井君ノ修正說ガ成立ッテ居リマス云フコトト、ソレカラ第五條第六條ノ間ニ免許年限ヲ五十年以内ニ限ル、此修正ニ贊成ヲ致シマス、其他富井君カラ出マシタ修正ニハ無論贊成ヲ致シマス

○委員長(子爵岡部長職君) 第一章ニハ富井君ノ修正說ガ成立ッテ居リマス云フコトト、ソレカラ第五條第六條ノ間ニ免許年限ヲ五十年以内ニ限ル、此修正ニ贊成ヲ致シマス、其他富井君カラ出マシタ修正ニハ無論贊成ヲ致シマス

○委員長(子爵岡部長職君) 第一章ニハ富井君ノ修正說ガ成立ッテ居リマス云フコトト、ソレカラ第五條第六條ノ間ニ免許年限ヲ五十年以内ニ限ル、此修正ニ贊成ヲ致シマス、其他富井君カラ出マシタ修正ニハ無論贊成ヲ致シマス

○委員長(子爵岡部長職君) 第一章ニハ富井君ノ修正說ガ成立ッテ居リマス云フコトト、ソレカラ第五條第六條ノ間ニ免許年限ヲ五十年以内ニ限ル、此修正ニ贊成ヲ致シマス、其他富井君カラ出マシタ修正ニハ無論贊成ヲ致シマス

○委員長(子爵岡部長職君) チョット御待チ下サイ、採決ニ就キマシテ順序ガ誤ッテ居リマシタナラバ、ソコデ御注意ヲ願ヒマス、成ルベク諸君ノ贊否ヲ表セラル、ニ御便利ノ方法ヲ採テ致シマス積リテゴザイマス、若シ採決ヲ致シマスニ際シテ及バヌ所ガゴザイマスレバ其時ニ御注意ヲ願ヒマス「第一章」トアル下ニ原案ハ「通則」トアリマスノ「總則」ト改ムルト云フ、此修正ニハ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

○名村泰藏君 贊成

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵岡部長職君) 是ハ可決イタシマシタ、第二條ノ「物上擔保ヲ附スルトキハ」ト云フノ「附セムトスルトキハ」トシテ「社債」ノ上ニ「其ノ」ト云フ字ヲ加ヘル、此修正說ニ御異議ハアリマセヌカ

○馬屋原彰君 序デニ其下ノ未文……

○委員長(子爵岡部長職君) 其下ノ「信託契約ニ」ト云フ下ノ「依リ定メタル條款ニ」ト云フ文字ヲ削ル、此修正說ニ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵岡部長職君) 是モ可決イタシマシタ、第四條、富井君ノ修正說ハ「社債ニ附スヘキ物上擔保」ト云フ原案ノ所ヲ「社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保」ト云フコトニナリマス、是モ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵岡部長職君) 同條ノ第一號ニナッテ居ル所ノ「一動産質」ト云フ、其「一動産質」ダケヲ削除シタイト云フ馬屋原君ノ削除說ガ出テ居リマス、此說ニ同意ノ諸君ハ手ヲ御擧ゲ下サイ

舉手者 少數

○委員長(子爵岡部長職君) 少數デゴザイマス、然ラバ唯今少數ニナリマシタ所ノ「一動産質」ト云フ所カラシテ此條ノ終マデハ別ニ御異議ハ無イト認メテ宜シウゴザイマス

○名村泰藏君 馬屋原君ノ第五條ト第六條ノ……

○委員長(子爵岡部長職君) 今ハ第四條ダケデゴザイマス、ソレカラ第五條ト第六條ノ間ニ馬屋原君ノ修正說、即チ一條ヲ挿入シヤウト云フ說デアリマス、「第六條」ト致シテ「信託會社ノ免許年限ハ五十年ヲ超ユルコトヲ得ス」ト云フ一條ヲ挿マウト云フ說デアリマス、之ニ同意ノ諸君ハ手ヲ御擧ゲ下サイ

舉手者 少數

○委員長(子爵岡部長職君) 少數デゴザイマス、次ニ第十條「信託會社ヲシテ事業」ト云フ其「事業」ノ上ニ「其ノ」ト云フ字ヲ加ヘル、又其次ノ第十一條、第十二條ニモ同シ場合ニ於テ「事業」ノ上ニ「其ノ」ト云フ字ヲ加ヘル、此三條ニ於ケル富井君ノ修正說ニ別ニ御異議ハ無イト認メテ宜シウゴザイマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵岡部長職君) 是モ可決イタシマシタ、第十七條、此第十七條ノ一番上ニアリマス所ノ「會社カ」ト云フ二字ヲ削ッテ「社債ヲ募集セムトスルトキハ」ト云フ

其「トキハ」ヲ「會社ハ」ト修正シタイト云フ富井君ノ案デアリマス、是モ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵岡部長職君) 唯今決シマシタノハ即チ第十七條ノ第一項デアリマス、同條ノ第二項、第二項ノ「日本ニ於ケル代表者ヲ定メテ」云々トアルノ「代表者ヲ定ムヘシ」ト致シテ、其アトハ削ッテ仕舞フ、是モ御異議ハ無イト認メテ宜シウゴザイマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵岡部長職君) 其次ニ新ニ一項ヲ挿入スルノデ、是ガ第三項ニナリマス、ソレハ「商事會社ハ前項ノ代表者タルコトヲ得」ト云フ一項ガ入リマス、是モ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵岡部長職君) 又其次ニ別ニ一項ヲ入レルコトニシマス、即チ第四項ニナリマス、ソレハ「第二項ノ規定ニ依リ代表者ヲ定メタルトキハ遲滞ナク其ノ氏名及住所又ハ商號及本店ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ」是モ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵岡部長職君) 末項「信託事務ニ關シテハ會社」ト云々トアル所ヲ「會社」ノ上ニ「信託」ト云フ二字ヲ入レル、是モ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵岡部長職君) 是ヨリ第二章ニ移リマス

○富井政章君 此章ニ於キマシテハ唯一ツ修正シテ置キタイ點ガアリマス、ソレハ第九條第一項ノ九テアリマス、「前順位ノ債權」トアルヲ「先順位ノ擔保ヲ附シタル債權」ト改メタイト思ヒマス、「前」ヲ「先」トシタイト思フ譯ハ唯普通「前」ト云フヨリハ「先」ト云フダケノコトデ、ソレカラ「擔保ヲ附シタル」ノ七字ヲ「債權」ノ上ニ被セタイ理由ハ、債權ニ順位ト云フモノハ無イノテアル、其債權ハ擔保ニ順位アルコトヲ明ニシタイト云フダケノ趣意デアリマス

○穂積八束君 是モ原案ノ意味ト本來ハ變ジタコトハ無クシテ唯文字ヲ明ニシテ其趣意ヲ明瞭ニスルコトデアアルヤウニ思ヒマス、富井君ノ修正說ニ贊成ヲシテ置キマス

○政府委員(平沼麒一郎君) 政府モ唯今ノ御修正ニハ異議ハゴザイマセヌ

○委員長(子爵岡部長職君) 富井君ノ唯今發議セラレタル修正ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵岡部長職君) 然ラバ可決ト認メマス、是デ第二章ニハ別ニ修正ガアリマセヌ、チョット第一章ノ終ニ宣告シマスノ「落シマシタガ、即チ修正說ガゴザイマセナカッタキ採決ヲ致ス」ガ落チマシテゴザイマスガ、其第一章ニ於ケル修正說ノ無イノハ即チ原案ノ通りテ可決ト認メテ置キマス、ソレカラ第二章モ其通りデアリマス、第二章ニ移リマス

○富井政章君 此章ニ於キマシテハ私ハ全ク修正意見ハアリマセヌ、唯一ツ第二十八

條ニ小サナコトデアリマスガ、「社債ノ償還」トアルヲ「其ノ社債ノ償還」トシ、「其ノ」ノ字ヲ入レタイト思ヒマス、是ハ上ノ社債ヲ承ケテ言フ場合デアリマスカラ其方ガ穩デアラウト思ヒマス

○委員長(子爵岡部長職君) 第三章ニ於キマシテハ唯富井君ノ述ベラレタル二十八條ノ「社債」ト云フ上ニ「其ノ」ト云フ字ヲ挿入サレルト云フ修正ノ外ニハ修正説ガアリマセヌカラ此修正説ト共ニ第三章全部原案可決ト見テ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(子爵岡部長職君) 可決ト認メマス、第四章、是ニハ別段修正説ガアリマセヌカラ原案可決ト認メテ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(子爵岡部長職君) ソレデハ第五章、……是モ他ニ修正ガアリマセヌカラ原案可決ト認メマス、第六章……

○富井政章君 五十二條ニ就テ少シ修正意見ガアリマス、第一項ノ末文ヲ左ノ如ク改メタイト思ヒマス「事項ノ決議ハ」トアル下ニ「總議決權ノ過半数カ行使セラレタル」トアリマス、此「總議決權ノ過半数カ行使セラレ」ヲ改メタイト思ヒマス、ドウ改メタル云フト「總議決權者ノ半数以上ニシテ社債總額ノ半数以上ニ當ル社債權者カ議決權ヲ行使シ」ト改メタイト思ヒマス、此修正ハ或ハ穂積君カラ御提出ニナツタ方ガ相當デアルカト思フデアリマスガ、詰リ本條ニ定メタル議決ノ方法ハ少シ簡略ニ過ギテハ居マイカ、殊ニ但書ニ於テハ最モ重大ナ事柄ヲ議決スル場合ト考ヘマスニ依ッテ、セメテ其場合ナリトモ今少シ鄭重ニシタ方ガ宜カラウト云フ趣意カラ出タ修正デアリマス、即チ社債總額ノ半数以上ト云フ外ニ頭數ノ方ニ於テモ半数以上ノ議決權ヲ行使セネバイカヌ、此「二ツノ條件ガ備ハラネバナラヌト云フコトニシタナラバ幾ラカ鄭重ニナツテ少數ガ多數ノ爲ニ壓倒サレルト云フ弊害ヲ防グコトガ出來ルダラウ、斯ウ云フ趣意デゴザイマス、ソレカラ末項ニ但書ヲ加ヘタデアリマスガ、是ハ馬屋原君ガ最モ熱心ニ御主張ニナツタコトデアリマスカラ馬屋原君ニ於テ御提出ヲ願ヒタイト思ヒマスガ、如何デゴザイマセウ

○馬屋原彰君 極ク簡單ナモノデスカラ序デニドウカ……

○富井政章君 ソレデハ僭越ナガラ序デニ私ガ代理提出ヲ致シマス、末項ノ終ニ左ノ但書ヲ加ヘタイト思ヒマス「但シ社債ノ最低金額ノ十一倍ヲ有スル社債權者ノ議決權ハ信託契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得」是モ少數ノ保護ノ趣意ニ出タ規定デアリマシテ、商法ニモ御承知ノ通り類似ノ規定ガアルデアリマス、斯ウ云フ制限ガ有ツタ方ガ穩デアラウト考ヘマス、ソレカラ第六十一條ニ「受託會社以外ノ者ハ」トアル其「ハ」ヲ「カ」トシタイト思ヒマス、是ハ唯他ノ條文ト文例ヲ合ハスダケノ主意デアリマス、ドウカ何レニモ御贊成ヲ願ヒマス

○穂積八束君 唯今富井委員カラ御述ベニナリマシタガ、第五十二條ノ修正案デアリマス、即チ議決權ニ關スル修正案デアリマス、是ハ唯今富井君サシカラ御述ベニナリマシタ通り、五十二條ノ第一項ニ定メタル事柄ハ條文ニ照シ合セテ御覽ニナリマスト明白デアリマスガ、何レモ皆重大ナコトデアリマス、一度債權者集會ヲ決シマシタ時ニ於テハ債

權ニ依ッテ利益ヲ受クル者ニ重大ナ影響ヲ及ボスコトデアリマス、ソレデ債權者ト言ヒマシテモ一枚ノ債券ヲ持ッテ居ル者モアリ、或ハ多額ヲ持ッテ居ル者モアリマス、デアリマスガ、唯多額ヲ持ッテ居ル債權者ノ爲ニ少額ヲ持ッテ居ル債權者ガ不當ニ壓セラレテモ甚ダ不條理ナコトデアリマス、且ツハ又少數ノ債權者ガ多額ノ債券ヲ持ッテ居ルガ爲ニ多數ノ小サナ債權者ヲ壓スルト云フコトモ宜シクナイコトデアリマスカラ、其所ハ幾分カ少數者ヲ保護スルト云フコトヲ見ナケレバナリマス、故ニ此修正ヲ御提出ニナツタコト、思ヒマス、ソレデ私ハ甚ダ結構ナコトデアリマスカラ贊成ヲ致シマス、次ノ議決權ニ就テ「最低金額」云々ノ場合ニ於ケル修正案モ同ジ主意デアリマスカラ、固ヨリ是モ全部富井委員ノ修正案ニ贊成デアリマス

○平山成信君 私モ贊成イタシマスルガ、私ハ實ハ頗ル疑ツタノデ、是ハ普通ノ株主ノ場合ト違フ影シイ諸方ニ廣ガテ居ル債權者デアルカラ、或ハ政府ノ原案ノ方ガ實際ニ適シハナイカト云フ疑ガアリマスガ、始メテノ場合デモアリ殊ニ修正ノ御主意ハ事ヲ鄭重ニスル主意デアリマスカラ、贊成ハ致シマスガ、實ハソレホド確信ハ無イ、半信半疑デアルト云フコトガ申シテ置キマス

○政府委員(平沼騏一郎君) 此御修正案ハ御尤ナ御修正ト考ヘマス、政府ニ於キマシテ御同意ヲ致シマス

○委員長(子爵岡部長職君) 第六章ハ富井君ノ修正ヲ可ト認メテ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(子爵岡部長職君) 然ラバ其他ハ總テ原案ノ通り決シマス、第七章

○富井政章君 此章ニハ小サナ修正ガ二ツ三ツアリマス、第一ハ第七十條第二項デアリマス「保存」及「トアル」及「且」トシタイト思フ、是ハ至ッテ小サナ修正ト動詞ガ二ツ重ナル場合ハ「及」ヨリ「且」ト云フ方ガ普通ノ文例デアリカト思フダケノコトデス、ソレカラ第八十二條第二項ノ「及債權質」ノ四字ヲ削リタイ、是ハ民法第三百六十二條第一項ノ解釋ニ關スルコトデアリマス、民法ニ於テハ債權質ニハ第三百五十四條ノ規定ハ準用セラレナイト云フコトハ殆ド疑ナイコトト存シマス、又普通ノ説モサウナツテ居ルト考ヘマス、ソレ故ニ此四字ヲ置ク必要ガ無イ、却ッテ民法ノ解釋上ニ疑義ヲ生ズルコトガアルカモ知レマセヌカラ、寧ろ除イタ方ガ宜カラウ、ソレカラ今一ツ是ハ修正意見ト云フヨリモ、チヨット御注意ニ申上ゲタイコトハ、第九十二條ノ二行目ノ終ニ引掛ケラ置クコトデアリマス、是デ第一項ガ終ルコトデアラウト思フデアリマス、サウスレバ行ノ終マデ來テ居リマスカラ止メテ付ケルト云フコトガ必要デアラウ、次ハ第九十六條デアリマス、「質權ニ之ヲ適用セス」トアルノヲ「準用セス」ト改メタイ、「準用セス」ト云フ言葉ハ如何ニモ面白クナイデアリマスケレドモ、民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ留置權ニ關スル規定デアリマス、而シテ民法第三百五十條ニ依ッテ其規定ハ質權ニ準用セラレテアルノデゴザイマス、ソレ故ニ何トモ言ハナケレバ質權ニ準用セラル、結果ニナルデアリマス、デ其準用ヲサナイト云フコトヲ言ヒタイデアリマスガ、民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ何處マデモ留置權ノ規定デアリマスカラ、ソレガ適用ガ無イト云フコトハ言ハズトモ分リ切ツタコトデアリマス、是ガ質權ニハ民法第三百五十條ニ於テ準用セラレテアルコ

トヲ前提トシ土臺トシテ、サウシテ此規定ハ本法ニ依テ設定スル所ノ質權ニハ準用シナイト云フコトヲ言フタガ方正シト思ヒマス、「準用セス」ト云フ言葉ハ如何ニモ苦シトハ思ヒマスガ、「適」ヲ「準」ト改メタイ、ドウゾ御賛成ヲ願ヒマス

○平山成信君 總テ賛成

○山脇玄君 政府委員ニ伺ヒマスガ、唯今ノ御修正ニハ御同意デスカ

○政府委員(平沼騏一郎君) 唯今ノ御修正ニ付キマシテハ篤ト勤考イタシマシテ御修正ガ相當デアラウト考ヘマス

○委員長(子爵岡部長職君) 第七章全部ヲ一括シテ採決シヤウト思ヒマス、即チ富井君ノ修正ハ全部ニ互ルコトニナリマス、此修正ニ御異議が無クレバ可決ト見テ宜シウゴザイマスガ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(子爵岡部長職君) 第八章

○富井政章君 此章ニ於キマシテハ二三文字ノ修正ヲ致シタイ、少シモ實質ニ關係ハゴザイマセヌ、即チ第九十七條ノ第二項ノ書キ方ハ、第十七條第一項ノ規定ト書イテ居リマスガ、是ハ如何ニモ突出デアラウ、第一項トノ連絡關係ガ付イテ居ナイト思ヒマス、

是ハ左ノ如ク改メタイ、「信託事務ヲ承繼スヘキ會社カ外國會社ナルトキハ第十七條第一項ノ規定ヲ準用ス」是ハ第一項トノ連絡ノ文章上ニ付ケルダケノ趣意デゴザイマス、ソレカラ第百一條ニ「第九十七條ニ依ル承繼ハ」トゴザイマスガ、是ハ「信託事務ノ承繼ハ」トアッタ方ガ宜シイ、ソレデ「信託事務」ト云フ五字ヲ入レタイノデゴザイマス、御賛成ヲ願ヒマス、ソレカラ第百一條ノ初ニ受託會社ノ承繼ハ」トアリマス、コ、ダケ承繼ト云フ言葉ニ人格ガ付キマス、外ハ皆信託事務ノ意味デアリマス、故ニ是ハ「信託事務ノ承繼ハ」ト改メタイ、何レモ區々タル文字ノ修正デゴザイマスカラ御賛成ヲ願ヒマス

○委員長(子爵岡部長職君) 即チ是ハ一括シテ取極メヤウト思ヒマスガ、唯今ノ修正說ニハ御異議ノ無イモノト認メテ宜シウゴザイマスガ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(子爵岡部長職君) 第九章

○穂積八束君 政府委員ニチヨット御尋シテ置キマスガ、第百十條ノ終ヒノ所ニ「又ハ外國會社ノ代表者ヲ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス」トアリマスガ、是ハ此會社法人ト自然人ト兩方ヲ含ンダデアリマスマイカ、一個人ダケヲ見タノデゴザイマスガ

○政府委員(平沼騏一郎君) 此代表者ハ個人ダケ見マシタ積リデゴザイマス、商法等ニ於キマシテ會社ヲ處罰スルト云フ規定ハ今日ゴザイマセヌノデゴザイマスカラ、此場合モ自然人ニ限ルト云フコトニ相成ラウト思ヒマス

○穂積八束君 サウ致シマスルト前ノ第十七條即チ富井君ノ御修正ニナッタ條デアリマスガ、アノ條ノ場合デ商事會社ガ代表者タル時ニ共商號、本店等ノ届出ヲ怠ラタ時ニハ罰スルコトガ出來ヌノデゴザイマスガ、或ハ商事會社ノ取締役等ヲ罰スルノデゴザイマスガ、ドウデゴザイマス

○政府委員(平沼騏一郎君) 其點ハ問題ニハ相成リマセウガ、政府ニ於キマシテハ其場合ニハ其會社ノ取締ナル或ハ業務ヲ執行イタシマス社員ヲ此規定ニ依テ罰スルコトガ出來ルモノト考ヘテ居リマス

○穂積八束君 モウ私ノ質問ハ宜シウゴザイマス

○委員長(子爵岡部長職君) 第九章總テ原案通りテ可決ト認メテ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(子爵岡部長職君) 然ラバ可決イタシマス、附則……是モ別ニ御異議ガゴザイマセヌケレバ可決ト認メテ宜シウゴザイマスガ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(子爵岡部長職君) 然ラバ可決イタシマス、是デ第二讀會ハ終リマシタカ、是ヨリ第三讀會ノ形式ニ移リマシテ、第三讀會ニ於テハ全部御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(子爵岡部長職君) 然ラバ是デ本案ハ議決ニ相成リマシタ

午後三時二十八分散會

出席者左ノ如シ

委員長 子爵岡部 長職君

委員 子爵堤 功長君

子爵新莊 直陳君

平山 成信君

山脇 玄君

男爵藤大路親春君

馬屋原 彰君

木下 廣次君

菊池 武夫君

男爵吉川 重吉君

富井 政章君

穂積 八束君

政府委員

司法省參事官 平沼騏一郎君